

5,716,636 円のご寄附をいただきました

2008 年度は(株)日専連ライフサービスから 740,904 円、みやぎ生活協同組合から 2,961,073 円の寄附をいただきました。この他に情報紙 81 号でご報告した通り、七十七銀行より 2,014,659 円、仙台青年会議所から 47,698 円のご寄附をいただいています。また、個人や企業からも寄附があり、2008 年度は合計で 5,716,636 円のご寄附をいただきました。

MELON を支えている協同組合のうち、みやぎ生活協同組合と協同組合日専連仙台・日専連ライフサービスでは「MELON 協力商品券」を販売しています。この商品券の利用額の一部が MELON に寄附され、皆さんの日常のお買い物行動から環境を守る活動に役立つ仕組みが作られています。また、協同組合日専連仙台では、MELON を支援するために『MELON ボトル基金』の設置を加盟店に呼びかけ、お客様に寄付を呼びかけています。

皆さんもぜひ積極的に MELON 協力商品券をご利用ください。宮城県内のほとんどの専門店、みやぎ生協全店、大型店でご利用いただけます。また、贈答にもご利用いただけます。ご用命はみやぎ生協各店舗、または日専連仙台・日専連ライフサービスまで。



MELON 協力商品券
(写真上) COOP MELON 商品券
(写真下) 日専連 MELON 協力商品券



MELON ボトル基金



ミツバチ失踪事件

シェイクスピアからゲーテ、メーテルリンク、杜甫、トルストイ、鷗外、夏目漱石……まだまだあります。ありとあらゆる国でミツバチは文学作品の中に現れている(渡辺孝「ミツバチの文学誌」)のだそうです。

ここ数年、人間の生活にそれほど密接なミツバチの世界に「異変」がおきています。アメリカでは以前からミツバチの失踪あるいは大量死事件が相次ぎ、ヨーロッパでも広がりつつあります。最近の本(ローワン・ジェイコブセン「ハチはなぜ大量死したのか」)によれば 2007 年の春まで北半球の 4 分の 1 が失踪したのだそうです。

この現象には「ほうくんほうかいしょうこうぐん CCD (蜂群崩壊症候群)」なるむずかしい名前がつけられています。CCD という単語はよく「CCD カメラ」などで耳にしたのですがここではまったく違ったことを言っていたのです。略語もいがかげんにして欲しいのですが日本語はもっとむずかしい。そしてその原因はさらにもっとむずかしいのだそうです。その CCD の原因にはウィル

ス、ダニ、ミツバチノゼマ原虫、農薬、蜂の酷使も疑われているのだそうです。なにしろミツバチの社会はとても高度な共同社会を作っています。どこかでおいしい花蜜を見つけたとします。その場所をほかの蜂たちにどうやって教えますか。もしその花蜜がたいしたことなく、見つけた蜂が勝手に「大変な発見だ」といっていたらどうですか。ミツバチたちはパニックにおちいらないような仕組みをあれやこれやしっかりと作っているのだそうです。その高度な集団としての仕組みが何らかの原因で崩れているのかもしれませんが。

太田英博 作 永井泰子 絵「ミツバチのおつかい」(大日本図書 1995 年) を読んでみましょう。にんしゃじゆく 忍者塾に入門したはなまるは、生物どうしがつながって生きていることを学びのです。さて、少し大きくなって「ミツバチを飼いたい!」と思ったなら、まず吉田忠晴編 高部晴市 絵「ミツバチの絵本」(農文教 2005 年) を読みましょう。ハチや機材の入手先までしっかり書いてあります。

今のところ日本では CCD のはっきりとした現象は見られませんが、ノゼマ病やこの CCD などが原因で西洋ミツバチが輸入がストップしてしまっていて、ミツバチが足りないのだそうです。私たちの隣の県のサクランボなどはいったいどうなるのでしょうか。

